

学生、教職員のボランティア活動 および地域復興への活動

震災の当日から大学内において、学生達は皆、精力的に働いていた。急きょ避難所となった本館や4号館において、学生たち自身や市民の方々のために、病気の対応、食事のお世話、寝床作り、各教室の諸連絡、子どもとの遊び等々様々なニーズに走りまわり、こたえてきた。4号館前の仮設トイレ設置後は、清掃やペーパーの補充にあたり、順次当番で交代しながら高齢者、子どもたちのお世話も行っていった。その後、市内中里小学校や住吉中学校にも支援に赴き、多くの児童、生徒、市民たちが不安に慄く中、物資搬入、炊き出し、駐車場整理等で明るくボランティアに励み、被災地に一条の光明を灯した。

本学には開学当初からボランティアサークル「つばさ」があったものの、10年ほど前から休部となっており、事実上団体としてのボランティア活動は近年はほぼ皆無であったが、この震災を契機に様々な学生達から声が上がり、5月11日（水）希望学生を集めてガイダンスを行った。当日のガイダンスでは、新学期開始前にもかかわらず、学生20人が参加した。教員側からは理工学部山崎省一教授と根本泉教授がボランティアの意義と目的を伝え、実際の業務説明を行ったのは、子ども支援を行っているNPO「にじいろクレヨン」の柴田滋紀さん、街の清掃、復興活動をおこなっている「石巻災害復興支援協議会」の伊東孝浩さん（本学同窓会長）であった。その後、事務担当から授業とのかかわり、保険登録につ

いて説明し、この日から組織的なボランティア活動が始まった。その後、ガイダンスを受けた学生達はボランティア有志を募り、その目的ごとに団体を結成していった。結果として物資配給補助や炊き出し、市内の中小・零細企業（主に水産業）支援をすることで石巻の産業に尽くす＝災害ボランティアサークル「ネクスト」、市内清掃、市民の居宅後片付け、避難所支援等の作業支援を行う＝復興ボランティアサークル「STEP」、子ども達の遊び相手、勉強をお手伝いする＝支援ボランティアサークル「ゆいまーる」の3つが設立され、土日を中心としてそれぞれ活動している。

9月13日（火）には「ボランティアサークル団結式」を行った。坂田隆学長より激励のあいさつを頂き、佐々木万亀夫学生部長より今後の活動を支援するユニフォームと名刺が支給された。その後、基調講演として一般社団法人「ピースボート」災害ボランティアセンター代表理事山本隆氏よりボランティアの心構えを伺った。このとき、3団体の構成員は約60人であった。

ボランティア活動以外の地域復興への活動も各所で見られ、経営学部では、石原慎士ゼミナール、李東勲ゼミナール、山崎泰央ゼミナールがゼミ活動の一環として産業・企業の復興を目指した調査活動、マーケティング活動、仮設住宅住民を対象としたアンケート調査活動などを指導教員のもと、積極的に展開している。（資料編「新聞報道にみる石巻専修大学」P.186～を

参照) 今後も両学部長、学生部長(学生部)の指導・管理の下、市民やNPO・NGOとの連携、授業との関係性を深め、さらなる組織的活動を行う予定である。なお、NPO団体が主催する「ボランティア講座」(仮称:平24年度開設予定)に学生が積極的に参加することで、理論的・体系的知識や実習を修得し、卒業後も各企業や全国の自治体等でボランティアリーダーとして活躍する人材となることが期待されている。



住吉中学校で活動する本学学生



【石巻専修大学(平成23年9月15日)】掲載



避難所に設けられた臨時図書館



【石巻かほく(平成23年4月12日)】掲載

1 その時、大学は

2 大学の被災状況

3 地震直後からの大学の対応

4 地域社会への貢献

5 各学部・委員会
などの対応・動向

6 建物と地盤について

7 震災を振り返って

資料編